RKM会報 Vol.14

2016年10月発行

編集・発行：RKM幹事会事務局：桑水流正邦（くわずるまさくに）　〒132-0035　東京都江戸川区平井4-26-9 渡瀬方
メールアドレス：rkm634@rkm634.jp

平成28年度　総会報告

平成28年度RKM総会を6月7日(火)18時半より日本教育会館(一ツ橋)にて開催致しました。今回は出席者33名とここ数年と比較すると少ない参加者ではありましたが、25期から78期までの会員が集まりました。残念ながら新会員の90期5名は学業優先のため参加出来ませんでした。

25期　平野精士

総会の部は、この一年間に亡くなられた2名の会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた後、36期久我会長の挨拶で始まりました。

引続き幹事会より、会報13号にて報告させて頂いた昨年度の決算における会計事故(会費入金の確認漏れ)を再度お詫びし、今後は気を引き締めて運営していくことを約束させて頂きました。その後「活動報告、活動計画、会計報告、同監査報告、現役支援金を含む剰余金処分案、予算案」を報告し、承認を頂きました。

活動面では、ホームカミングデイ、元旦バスケ、現役試合応援を柱に、41期新津耕一さんによる中学指導、年2回の会報発行、100年誌に向けて各期情報収集、アーカイブ活動、HP再開を実施したこと、2016年度も引続きこれらの活動を継続するとともに、29期川浪茂男さんによる現役指導、第二回代々木イベントを計画中(来年3月31日会場確保済)であることを報告しました。

一方、これら活動を支える会費収入が頭打ち傾向で、過去の大口寄付金による繰越金に頼る運営となり、単年度赤字となっていること、90周年・100周年に向けて単年度黒字化による財政基盤の立直しが必要なこと、かつ中堅若手が参加しやすい工夫をしていくことを提言しました。

なお、幹事会体制の見直しを行い、これまで中学コーチ経験者は大学卒業後も幹事会メンバーとしていたが、多忙なことから、期幹事としてサポートしてもらう体制としました。一方、幹事会の補強として46期長谷川恵一さんに加わって頂きました。

また、現会則では監査役2名以上と規定されていますが、現状に合わせて1名以上とする改訂を提案し承認されました。

最後に、会員同士の活動の一例として、高三まで18名の部員がいた76期塩山さんの近況報告(同封資料参照)を紹介し、この様な思いをつないでいけるように活動を継続したいと結びました。

懇親会の部は、昨年ご挨拶を頂きながら会報でお名前を間違えてしまった25期平野精士さんに再度乾杯のご挨拶を頂きました。

例年多くの方から近況報告を頂いていますが、今年は会員同士の歓談の時間を増やした結果、会場に流したインターハイ予選のビデオを見ながら、皆さんバスケ談義に花が咲いていました。

皆さんの談笑が盛り上がった中、現在武蔵高校で数学科の非常勤講師を務める78期木本健一さんから現役状況を報告してもらい、現役支援金の贈呈を行いました。

78期　木本健一

また、44期柳生雄弐さん(写真家)からネパール募金のお礼があり、その柳生さんと現役の頃から交流があった武蔵大学出身・BB振興会理事長・渡辺誠さんから、武蔵・畑公との関係および日本バスケット界の現状についてお話頂きました。

また、現役指導を予定している29期川浪さんから、現役支援では「変わったこと、変わらないことがあり、今でも大事なことを現役に伝えたい」とのお言葉を頂きました。

最後は集合写真を撮影して今年度の総会をお開きとしました。

会長挨拶

総会開催にあたり、この一年間に亡くなられた二名のRKM会員のご冥福をお祈りして黙とうをささげたいと思います。(お名前は最終ページに記載させていただいております。)

ここ数年の総会出席者は50名前後でしたが、今回は30名程度になってしまいましたが、ゆっくりご歓談下さい。

今年新たに会員になられたのは90 期 5名の方々です。2名が京都大学と米国の大学に進学、3名の浪人の方もお忙しく本日は出席できませんが、皆様の後輩としてよろしくお願いします。

さて、この1年間のRKMの活動内容や今後やりたいことなどは各幹事から報告致しますが、私からも一言お話しさせていただきます。

ここ数年のRKM活動は、代々木イベント、会報の充実、ホームページの復活など多方面にわたって活動を進めてますが、これを支える財政基盤の充実も重要な課題であります。

吉澤前会長の時、会員400 名の半分200 名を目標にした会費納入強化も100 名前後から150 名まで伸ばしてまいりましたが、伸び率がやや鈍化の傾向にありますので、活動をささえる会費収入の増加にむけてこの一年取り組み、多くの会員の方が参加出来る企画を開催したいと考えています。

最近は会費収入に加え、皆さんからのご寄付も、財政基盤を支える重要な要素になっています。毎年たくさんのご寄付を寄せていただき、現役の支援などに活かさせていただいていますが、昨年は38 期の齋藤斗志二さんから、「学生時代にRKMでいい経験をしたことへの感謝と、現在のRKMを応援するため」と多額のご寄付をお預かりしまして、この総会でご紹介し、私も同じ気持ちなので、この機会に寄付しますと申し上げました。そうすれば何人かの方から「自分もそう思う。」といって、感謝と応援のご寄付が集まるのではと考えたのでしたが、甘かったです。私の失敗は、総会の時の寄付金箱に匿名で入れてしまったので目立たなかったかもしれないと思い、今年もう一度、目立つように寄付させていただきます。どうかこれを契機として今年からうまくいくようにお祈りして、本年の総会のあいさつとします。

乾杯挨拶　（25期　平野精士さん）

今日の報告を聞きまして以前と比べて非常に充実してきたなと感じてます。メールもどんどん送って頂けるし、中身も良くなっている。残念なのは参加者が少ない。私は卒業依頼、地方勤務をしている頃を除いて、総会を一回も休んだことがないのですが、今日は寂しい。出来れば若い人が欲しい。いつもここで写真をとると、若いのがずらーと前に並んでその頭をなでるのが楽しい。今日はなでるとつるんとしたのばかり。執行部の皆さん、若い人をどんどん呼ぶ方法を考えてさらに活性化させて下さい。

また、会計も詳しく報告して頂き充実していますが、遠慮せずどんどん積極的によい使い方をして、皆が楽しくなるように活性化させて頂ければ非常にありがたい。

私は5人一緒に卒業したんですが、他の4人は優秀で、それが60才頃からばたばた死んで逝く。お葬式で必ず畑公に会う。文句言われるのがやだなと思っていると向こうの方から「おーい、平野」と呼ばれる。で行くと必ず「平野な、優秀なやつから死んでいくよね」、「私のことを言っているんですか?」、「そうだよ」。

今日もそういうふうに言いたかったんですが、優秀な人ほど残っていますから、是非活性化するように頑張ってやって頂きたい。

それでは、皆様の健康を祈念いたしまして、またRKMのますますの発展を祈念いたしまして乾杯したいと思います。

ご唱和お願いします。　乾杯!

ホームカミングデイ報告　（2016年9月10日開催）

恒例の同窓会主催ホームカミングデイ(HCD)も今年で第37回となり、二学期開始直後の土曜午後に好天のもと開催されました。今年は講演会が13時からとなり、14時開始の現役交流会への集まりが遅れるかなと心配していましたが、中堅若手の参加により例年以上の盛り上がりとなりました。

白熱したOB 対高校生、OB 対中学生、現役同士の試合のあと行われた恒例のフリースロー大会の結果は下記のとおりでした。

中学生：優勝：中2二木、準優勝：中1北川、三位：中1若林

高校生：優勝：高1澁谷、準優勝：高2林田、三位：高2吉田

OB：優勝：82期脇田、準優勝：32期佐室、三位：58期松本

佐室さんは予選5/ 5、本選3/ 3と完璧な内容でしたがプレーオフでは力尽き惜しくも脇田さんに負けてしまいました。

一汗流した後は、合同懇親会だけでは飽き足らず江古田駅前に繰り出し、「お志ど里」はRKMを含む多くの同窓生でごった返してました。

出席者（敬称略：**27期鹿子木、29期大澤、32期佐室、32期羽根田、36期久我、41期新津、41期落、47期桑水流、48期高原、53期時任、54期山田、54期今田、54期松原、58期松本、61期桑田、78期木本、82期脇田、82期若杉　（計18名）**

日本バスケットボール振興会　渡辺 誠さん寄稿

日本バスケットボール振興会の渡辺誠さんは武蔵高校出身ではありませんが、畑公およびRKMのシンパでRKMの特別会員になって頂いてます。武蔵とは振興会を通じての関係と思っていたのですが、先の総会で、RKM 44 期と一緒に練習した縁であることを知りましたので、今回執筆をお願いしました。

二つの高校

武蔵大学17期（昭和45年卒）渡辺　誠

私は、卒業した都立蔵前工業高校（蔵工）OB 会と武蔵高校バスケット OB 会「RKM」の二つの高校 OB 会に所属しています。

蔵工は、隅田川にかかる蔵前橋のたもとにあり、出身の久松中学は、両国橋のたもとにあります。昭和 20 ～ 30 年代に、東京都の大会で武蔵中学と対戦したこともある中学で、蔵工は、昭和 36 年に福井で行われたインターハイの3位決定戦で、武蔵高校と対戦した過去もあります

昭和 32 年に東京都男子高体連の本部が九段高校から蔵工に移り、都大会の代表者会議も行われることもあり、当時の高体連の役員の先生方が蔵工に集まっていました。従って、お世話になった畑先生、杉本先生のお二人は高校生の時から存じ上げていました。平日の練習は、定時制の授業の始まる前の5時までの 4 日間、半面コートでした。土、日は、京北高校、安田学園などとよく練習試合を行い、他に地方の多くの有力校が東京に遠征した際も多くの練習試合を行いました。

昭和 40 年に武蔵大学に入学、春休みから練習に参加しました。体育館は、狭くて、暗い、床は、ほこりと砂、中・高生が下履き（土足）でシュート練習をしていました。ボールは、汚れており、練習する環境の違いに凄くがっかりした記憶があります。蔵工の体育館の床は、ピカピカで、磨かれたボールが当たり前でしたから。

中学、高校、大学のバスケット部と体育館を併用している状態でしたので、中・高生の練習を見学し、大学の練習が始まる前に、畑先生に言われ、高校生とバスケットの練習試合を行いました。「ボールに対して早い飛び出し」「ストップが鋭く低い」「飛び出して下がるディフェンス」「予想するプレイ」「正確なパス」「低く強いドリブル」「ストップしてからの自在なピボットフット」などのプレイに、今まである程度理解し、漠然と行っていた基本的動作を確実に徹底して実行していることに驚きました。バスケットボールの練習の環境（体育館）と技術の二つの面で驚いた訳です。高校生に負けるわけにはいきませんから、「畑先生の武蔵のバスケット」を理解、体得すべく大いに努力し練習したつもりです。

卒業してからも、大学での4年間、中学、高校生の部員の皆さんとの交流は「良い思い出」として長く心に残っていました。先日の OB 会で、「練習試合をしたことが強化につながり、高校生の良き練習相手だった」と思われていたことも望外の喜びを感じました。

社会人になってから、日本協会、実業団連盟の役員などを経験した時代に、代々木第 2 体育館で畑先生と試合を観戦しながらの「バスケット談義」も至福の時間でした。

交流した当時の多くの中・高生とお会いできることは、大きな喜びであり、武蔵の 4 年間は、私のバスケット人生にとって限りなく有意義な時間であったと思います。

左：大学 17 期　渡辺　誠、右：44 期　柳生雄弐

①昭和 20 年代

昭和 20 年に、終戦をむかえ、日本は、大きく変わろうとしていた。そんな時代に高体連が誕生し、当専門部も同時に発足し、徐々にではあるが、バスケットボールを愛好するものが増えてきた。戦災で焼失した体育館が多く、練習は屋外コートでしかできなかったが、高校生は、嬉々として練習に励み、明るい未来を予感させた。部員たちの鍛錬と教員の指導に恵まれた都墨田工業高校、武蔵高校、都第三商業高校などが優秀校としてあげられる。

②昭和 30 年代

東京のレベルは、全国的に群を抜いていて、武蔵高校のインターハイ 2 連覇、中大杉並（後の中大附属）のインターハイ 3 連覇と他県を圧倒し、インターハイベスト4の内、2 ～ 3 校は常に東京勢が占めていた。前記の高校の他、都北園、都蔵前工業、京北、都足立、関東、明大中野、安田学園、暁星、成城学園などが活躍していた。

③昭和 40 年代

この時代のインターハイをみると中大附属が、昭和 40、44, 47 年、明大中野が昭和 46 年と全国制覇の偉業を達成している。都内では、都蔵前工業、早稲田実業、武蔵、中大杉並、世田谷学園、安田学園などが上位常連校であった。

［東京都バスケットボール協会 55 年史］
男子高体連の歩みから抜粋

30 期　インターハイ連覇を逃す

終戦、間もない昭和25 年に中学に入学した頃のスポーツと言えば野球だった。処が武蔵中学には野球部がなく、止む無く偶々出合ったバスケットボールを始めた。当時は数年上の先輩（26 期新谷さん、27 期鹿子木さんら)がコーチとして我々を指導してくれた。

高校になると畑先生（畑公)に基本から教えられ、多士済々の1 年先輩方にも恵まれ、小生が2 年の時、秋田での全国高校選手権で優勝。宿舎で高松宮杯に入れたアイスクリームの味は格別だった。

翌年の神戸では2 点差で前年と同じ相手、新潟三条高に敗れ準優勝。この時は非常に悔しかったことを思い出す。

当時は学校が休みの時に千葉四街道や新潟新発田で合宿をしたが毎夜、畑公を中心に諸先輩も加わりバスケット談義をしたことも懐かしい思い出だ。

もう一つの自慢の思い出はフィリピンの高校チームが来日し各地で親善試合をしたことがあり、我々が東京代表で相手し87 対65 で快勝した。無論、日本側で唯一の勝利だった。

最後に、我々の時代は畑公という偉大なバスケットボールの虫に指導を受けるという幸運に恵まれた上に、良き先輩、同期、後輩にも恵まれ、高校日本一になれたが、唯一恵まれなかったのはコートである。扉もなく、土足でそのまま直ぐにコートに入れてしまうので一年中床は泥まみれ、その上、床板は擦り切れて木目がやすりのようになり、今では想像出来ない状態だった。

まだまだ、思い出は尽きないが、バスケットボールに出会い畑先生に出会い、そして諸先輩や仲間に出会ったことは小生の一番大きな宝であることに感謝したい。

当時の畑公のバスケットボール

《オフェンス》

ダブルポスト

フリースローラインの両サイドにセンターが立ち（ダブルポスト)、ガードがそこへパスをすることからフォーメーションが始まる。このフォーメーションの欠点は4 人でのオフェンスとなり一人、遊んでしまうことだったと記憶している。

《デイフェンス》

あらゆることをやった。マンツーマン、オールコートプレス、2-3 ゾーン、3-2 ゾーン。

マンツーマンではT デイフェンスということをやった。畑公曰く、一人が抜かれてもそれをパックアップして止める。あたかもT の字のように。そしてそれは楽しいのT でもあると。言う間でもなく、バスケットボールというスポーツはオフェンスに有利であるが、それがゆえにデイフェンスが大変重要になる。強いチーム= デイフェンスが強い、と言って過言ではない。強いデフィンスとは相手のやりたい事を予測し、やりたいことをやらせない、これに尽きると思う。絶えず予測してデイフェンスしていれば、パスカットも出来る。無論、相手もその裏をかくことを考える。この駆け引きがプレーヤーも観衆も面白いのだと思う。サッカー、ラグビーも同様である。

（30期　木村　厚之助）

40 期　現役当時の思い出

手元にろくな資料も写真も無く、ろくな戦績もなかった年代ですので、私の記憶するところをいくつか書かせて頂きます。

《入学したての頃の思い出》

私は入学時身長も142cm しかなく、体力も運動神経もお粗末で結構病気もしていた為中学に入ったらとにかく何か運動部にでも入って体を鍛えたいとの気持ちでバスケットボールを選びました。なぜバスケットボールだったかというと単純にわたしの姉が高校でバスケットをやっていたという事だけでした。

でもバスケットボール部に入ってみてから知ったのですが武蔵のバスケットボール部というのはとてつもなく強くて、インターハイでも大変な実績を上げている部だという事を知り本当に我々も頑張れば何とかなるのではという夢を持っていました。特に中一の夏頃だったと思いますが、西校庭で行われた時の朝礼で今は亡き吉沢至さんが壇上に立ち関東大会で優勝したことを報告されたのです。

この時は本当に感動させられました。我々も何とかああいう格好の良い姿を見せたいと本当に思った事を良く覚えています。

《その後の戦績等》

およそ40 年前に発行されたRKM50 年を見てみましたが我々前

後の時代の記録は全く見当たりません。これは当たり前のことですが残念ながら中学・高校を通じて全く私の記憶にも無いように実績が全く有りませんでした。ほとんどの試合で一回戦か二回戦で敗退していたのではないでしょうか。一年上の宇田川さん（残念ながら若くして亡くなられましたが）の年代も人員不足で苦労され、我々の年代と含めこの二年間が一番武蔵のバスケットボール部の歴史で暗黒の時代だったかも知れません。その分、畑公にはずいぶん苦労を掛けたような気がして今でも申し訳なく思っています。

《同期の仲間たち》

上記の様な戦績では有りましたが、同期には川岸君という身長は高くはないが名プレーヤーが居ました。また原君という我々の中では一番背の高い（といっても180cm はなかったと思いますが、、）センタープレーヤーもいました。浅野君や守田君というファイティングスピリットの強いプレーヤーも居ました。他には新田君、今村君といったところで人数だけは結構いたのだと思います。今村君だけは消息が不明ですが他は皆さん今でも元気に活躍されています。

今年の3 月には我々武蔵の同期で卒業50 周年という盛大なパーティーを行いました。約80 名がパーティーに参加し記念の文集も作成、同窓会室に置いてありますので興味の有る方はご覧になってください。

《御茶ノ水の方との思い出》

中学生の頃は畑公が監督をやられていた御茶ノ水の高校生と良く一緒に練習やら試合をやりました。幼な心にでは有りますが男子校の中で触れ合うことのない女性とのふれあいがとても楽しく、有意義な時間であった事を良く覚えています。お陰様で彼女達（皆さん年上ですが）とは毎年新年会をやったりゴルフ会をやったりして今でもお付き合いが続いています。

（40 期　井上　清英）

50 期　思い出の RKM

RKM の伝統に違わず、我々も平均身長 170cm そこそこの、体力的には恵まれないチームだった。空中戦ではとても勝ち目が無いので、オフェンスはフォーメーション主体、ディフェンスは 3-2 ゾーンで小さく固めて守り切る方式を基本とし、勝負をかける時にはマンツーマン、三面を短時間だけ使用。残念ながら、戦績は公式戦各大会ともに 3 回戦で敗退であった。勝てそうな雰囲気を感じながらも、最後の一押し、絶対的な勝ちパターンが無く勝ち越せない。最後までそこから脱皮できないままで現役を終えてしまった感がある。強くないチームとはそうしたものか。勿論インターハイを目指して必死にやっていたのだが。

畑先生の顔で、強いチームとの試合には恵まれた。公式戦の他に、横田基地で行われたアメリカンスクールの Far-East 大会、京都で開催された関西地区の強豪が集まる大会に参加でき、記憶に残るゲームも数多く体験した。特に印象的だったのはアメリカンスクール。外は真冬なのに、横田基地の体育館の中だけはまるで真夏であり、観客は半袖で、汗をかきながらアイスクリームを片手に観戦。日米の経済力の差を痛感した瞬間であったが、プレーでもまた実力の差を思い知らされた。自分達よりもはるかに体格の良いプレーヤーが物凄いスピードで動く。目の前でクリスクロスの速攻を華麗に決められて唖然とするばかり。マナーも素晴らしく、「やっぱりアメリカは凄い」と素直に思えた日本の高校生だった。オイルショック直後で 1 ドル 300 円、まだバブルが始まるのはずっと先であり、街には「喝采」や「襟裳岬」が流れていた頃の事。

卒業後は皆バラバラの道を歩んでいる。電機、自動車、銀行、放送、イベント、塾経営。しばらくは毎年のように集まっていたが徐々に頻度が減り、滅多に顔を合わせなくなった頃に、同期の取りまとめ役であった元岡君の訃報に接する(2006.8.3　赴任先のバンクーバーで急逝　享年 48)。突然の別れに呆然とするばかり。大事なメンバーが欠けてすっかり寂しくなってしまったが、ある時より墓参を兼ねて同期で集まるようになった。今年は奥様と、すっかり立派な社会人になられた 3 人の御子息達にもご参加いただけた。10 年の歳月を思い、良く似たご子息達に若かりし頃の父親の姿が重なって見えた。

来年には 還暦を迎える。同じ記憶を持つ者が集まれる機会も多くは無いかも知れないが、自分自身の原点を振り返る時間、大切にしていきたいものである。

（50 期　渥美　滋）

60 期　継続すること

60 期は名簿からもご覧頂ける通り、RKM メンバーは自分ひとりです。自分の不徳の致すところで、中学部から高校部に移る際に大半が辞め、その同級生たちとは何となく気まずいまま卒業を迎えたこともあり、彼らをRKM に誘うことなく、本日に至ってしまいました。

中学時のチームは体格には恵まれなかったものの、RKM OB コーチによる指導のお蔭で、区大会で上位を争える実力は備えていました。その際に体格に恵まれない分、考えるバスケットボールを目指そう、相手の先を読んでオフェンス・ディフェンスをやろうと言うRKM の伝統を教え込まれた記憶があります。

一方、高校時は同級生がいないので、59 期が最年長の時はこれに混ぜて貰い、自分が最年長となると61 期・62 期と共にチームを作ると言う状況でした（有難いことに今でも前後の皆さんの懇親会にも呼んで頂いており、RKM メンバーの一体感を感じています）。

自分が最年長となった時は、実力のあった59 期の皆さんが引退して畑公の熱意もトーンダウンするのではと思っていたのですが、思いの外しっかりと指導して頂きました。高2の夏休みは、武蔵の体育館が改装で使えずに日立戸塚や三井生命柏の体育館を使って合宿を行いましたが、ひたすら走る練習ばかりで、本当にきつかったのを今でも覚えています。今思えば、チームの脚力の無さを見て、先ずはここに集中しようとの畑公の意図だったと理解します（当然畑公は背景を説明しませんので、当時はただ恨めしく思っただけですが）。

秋の大会は、体格の良いメンバーを擁する開成と一回戦で当たり、脚力・体力で圧倒され100 点ゲーム・ダブルスコアで負けてしまいました。その後は、上記畑公の熱意ある指導のお蔭で、少しずつですが成長して行くのを感じ、迎えた高3 最後の大会の3 回戦で開成と再戦、当初はリードし、結果敗れはしたものの、最後には差が15 点くらいと前回とは比較にならないほど良い試合が出来ました。これは継続して努力をしていれば必ず実力が付くと言うことを身を持って学べた貴重な経験と思っています。

また、引退時の歓送会の時に、新品のボールに「真摯一貫ー畑龍雄」と署名頂き、61 期・62 期の皆さんの署名とともにプレゼントして頂いたのは、今でも宝物として取ってあり、最後の開成戦とともに、その後の自分の人生の支えの一つとなっています（一人であったので斯様な豪華なプレゼントが頂けたので、一人も悪くない?）。

《チームの特徴》

中学時代は8名、3区大会でベスト4まで行くも、中学終了時に6名が退部し、二人に。高校で2名増えるが、高1終了時に3名も辞めてしまい、結果として一人に。この為、高3時点では61 期を主力メンバーとして戦った。

《オフェンスの特徴》

フォーメーションは覚えていませんが、猿の手キャッチ、左右にずれながらボールをキャッチして相手を抜き去る、シュートする、猿の手のままでドリブル、1 対1 の際に円月殺法の様にボールを回しながらフェイントを掛けてドリブルで抜く、下に飛ぶなどの個々の技術は記憶に残っています。

《ディフェンスの特徴》

基本は2-3 か3-2 のゾーンディフェンス

（60期　川端　徹 / 在ジャカルタ）

新入会員紹介　90期

90 期バスケ部は関口麻人（CP 番号 4）、酒入雄太郎（7）、近藤直樹（8）、青沼佑太（5）、児玉智雅（6）の 5 名で活動をしていました。去年の夏に我々の代は 3 回戦で惜敗し、現役引退となりました。それまで指導にあたって下さった山崎先生、津田先生、木本先生、トレーナーの金井さん及び支援にあたって下さった OB の方々には改めてお礼を申し上げます。

例年の代に比べて最上級生の人数が少なく 5 人しかおらず、さらに関東予選からインターハイ予選の直前にかけて主力の酒入、近藤の 2 人が国外留学に行っていたこともあり、我々の代はずっと下級生を多く主力に組み込んだチーム作りを行ってきました。こうした中でも東京都ベスト 32 に入ることを目標として、2–2–1 オールコートプレスによるアグレッシブなディフェンスや 2–1–2 ゾーンディフェンス、オフェンスではスローインからのセットプレーや相手のディフェンス形式に応じたセットプレーなど、様々な戦術を状況に応じて使い分けるいわゆる頭を使ったプレー、そして技術がない分走り回って運動量を多くして上位のチームに対抗してきました。

しかしこうした戦術を使っていく中でチーム内で共通認識が出来ていない部分がでてきて、その結果として自分たちがやりたいことをやれないまま負けてしまうような試合が公式戦でもあったことは今でも悔やまれます。

最後の大会は満足のいかない結果となってしまい、目標としていたベスト 32 を達成することは出来ませんでしたが、少ない人数ながら最後まで全力で戦い抜けたことを誇りに思います。

我々 90 期は引退しましたが、RKM の一員として武蔵高校バスケ部の繋がりを失わずにいられることはとても嬉しく思います。今後は、高い目標を掲げて日々努力している後輩たちを支援する側として武蔵高校バスケ部に関わっていけたらと思います。RKM の一員としての 90 期一同をよろしくお願いいたします。

（90期　関口麻人）

現役公式戦試合結果

高 校

新人戦　第4支部大会

2015年10月18日武蔵高○115－33都中野工

2015年11月1日　武蔵高○88－64都小平西

2015年11月3日　武蔵高●60－79都東大和

関東大会予選　Aブロック

2016年4月10日　武蔵高○102－64豊南

2016年4月17日　武蔵高○94－56都大田桜台

2016年4月24日　武蔵高●83－85都西

インターハイ予選　Dブロック

2016年5月22日　武蔵高○120－55都深川

2016年6月5日　武蔵高○65－55穎明館

≪観戦記　89期・斎藤悠一≫

支部選抜選手を擁する穎明館は、身長では武蔵を大きく上回り、難しい試合展開が予想された。

注目の立ち上がり、武蔵の得点源である＃6斎藤のシュートが今日もよく入る。また、相手のオールコートプレスDFに対して＃7古屋のボール運びに安定感があり、攻撃の起点となった。こうして、1Qは16－14とまずまずのスコアで終える。

2Qの中盤、相手のハーフコートのゾーンDFに苦しめられた武蔵はシュート確率が落ち始め、差が詰められる場面が見られた。しかし、最終的には33－24とリードを広げる良い流れで前半を折り返す。

早く点差を広げたい武蔵は、2年生ながらここまでOFリバウンドに競り勝っていた#13福地のゴール下のシュートも決まり始め、武蔵の流れを作る。一方、相手のファウルトラブルをチャンスとしてモノにできず、3Qで48-39と点差を開くことができない。

油断できないスコアのまま4Qに突入。相手の選手も、諦めることなく攻め続け、武蔵にとっては苦しい時間が続く。これを打破するきっかけを作ったのは、前線から長い手足を活かし、気迫あふれるDFを行っていた#5平井である。このDFから早い展開に持って行き、最後はここまで司令塔としてゲームをコントロールしていた#4佐藤が冷静にゴールに沈めた。この美しい速攻などで、終盤の相手の猛攻をしのいだ武蔵が65－55で勝利を手にした。

今回の試合では、終始武蔵の実力が上回っていたが、メンタル面に多少の脆さが伺えた。来週以降の試合はダブルヘッダーになるので、今日の試合で見事な3Pを決めた#8早瀬を中心に、他の控え選手の活躍が勝利への近道になるだろう。

2016年6月12日　武蔵高●74－91日本大第二

≪観戦記　84期・橋本尚典≫

立上り、最初に流れをつかんだのは武蔵。相手の得点を許さず、一方的に点差を広げた。しかし、1Qの中盤、相手も冷静さを取り戻し、逆に流れを奪われたことで武蔵の得点が止まってしまう。出だしは好調だったものの、一度奪われた流れを取り返すことが出来ないまま、1Qは13－23と点差を離されて終了。

2Q、武蔵は冷静さを取り戻し、着実に点を重ねる。特に、相手の攻めの中心である＃7がベンチに下がったことで、流れは武蔵側に傾いた。しかし、相手のもう一人の攻めの起点である＃5のインサイドプレーを止めることが出来ず、2Qのスコアは20－15と武蔵が優勢であったものの逆転には至らなかった。

3Q、お互いに強気の攻めが続いた。武蔵はアウトサイド、インサイドともに＃5平井、＃6斎藤、＃7古屋を中心に点を重ねた。一方、相手のインサイド特に＃5を止めきることが出来ず点を重ねられる。中盤、武蔵は＃13福地を投入しインサイドを強化。結果的にオフェンスリバウンドを支配し流れが武蔵に偏り始める。しかし、終盤その福地がファールアウトで退場。ここで流れを相手に持っていかれ、結果的に3Qは23－23と点差を縮めることが出来ずに終了。

4Q、立ち上がり、流れを引き寄せたのは日大二であった。一方、これ以上点差を広げられるわけにはいかない武蔵はタイムアウトを駆使し流れを引き寄せようとするも、オフェンスの決め手に欠き点差を縮めることが出来ない。さらに、日大二は＃17の3Pが高確率で決まり始め、完全に流れを引き寄せた。結果、逆転が難しい点差にまで広げられ、最終スコアは74－91。高校三年生の引退試合となった。

実力的にはほぼ互角の相手であるように感じた。現役生にとっては悔しい結果となったと思う。厳しいことを言うようだが、精神面での弱さが顕著に表れた試合でもあった。身長や技術の優れたチームであっただけに、見ている側としても悔しい結果であった。高3が引退し、高2を中心とする新チームが動き始める。本大会でも、高2ながら＃13福地や＃14林田は大いに存在感を発揮した。引退試合の悔しさを忘れることなく、更に強い武蔵を見せてくれることを期待している。

中 学

練馬区新人大会

2015年10月4日　武蔵中○68－42石神井

2015年10月11日　武蔵中●44－63石神井東

都春季大会予選　第三ブロック

2016年4月10日　武蔵中○55－47中野五

2016年4月17日　武蔵中●35－65高井戸

練馬区総合体育大会

2016年6月5日　武蔵中○65－39●都大泉

2016年6月12日　武蔵中●43－76○中村

≪観戦記　87期・守田智洋≫

試合全体を通してチーム全員で動き回り、相手ボールマンへのDFは非常に良く、相手のシュートを抑える事ができていた。

OFも序盤は相手のプレッシャーに負けずボールを運び積極的にゴールにアタック出来ていた。しかし要所でのスクリーンアウトやイージーシュートの精度の差で徐々に点差が開くと、OFで足が止まりターンオーバーから得点を許してしまった。 苦しい時間帯に攻め気を失いボールが回らなくなってしまう、という区民大会からの課題が最後の試合でも出てしまったのは非常に悔しいが実力的に格上の相手に対してインサイド陣は最後までリバウンドに飛び込み続け、ガード陣は何本もスティールを奪うなど良く動けていた。人数も多くポジションのバランスも良い世代であり、下級生も上級生に負けない働きをしてくれた。高校での活躍に期待したい。

ＲＫＭゴルフ会のお知らせ

2016 年春の大会は 3 月 23 日(水)、千葉県市原市の浜野ゴルフクラブにて開催されました。

好天に恵まれ素晴らしいゴルフ日和で、24 名の参加者がゴルフを楽しみました。新ペリア方式の結果、優勝・松本一郎さん（58 期)、準優勝・岡村道生さん（お茶の水・岡村光子さんのご主人)、3位･川浪茂男さん (29 期) でした。次回秋の大会は 11 月9日 (水)、埼玉県嵐山町の嵐山カントリークラブで開催します。詳細はゴルフ会幹事･鹿子木雅さん (36 期) または RKM 幹事会にお問合せ下さい。

優勝者の弁 「富士通レディース、日本プロなどが開催された名門コース浜野 GC で、RKM ゴルフ会に初優勝することができ光栄の至りです。当日は第一組で回らせて頂いたのですが、鹿子木基員さん、川浪茂男さん、印南文雄さんの年齢合計は何と 240 歳! 50 歳といえどもまだまだヒヨッコの自分を大変カワイガって下さり、和気あいあいと楽しくラウンドすることができました。また、終了後は、吉澤力さん達が『祝勝会をしてやる』といって２次会に連れて行って下さり､改めて初優勝の喜びをかみしめることができました。名門コースで大先輩の方々と交流を深めることができる RKM ゴルフ会。秋のコンペも今から楽しみにしております。」

ネパール大震災募金の報告

約一年に渡り続けて参りました募金は､カレーレストラン｢マサラハット｣および写真集『ネパール回生を願って』による募金により合計1,530,139 円に達しました。

計画通り､アルガカンチ県の山村にあるパーランキリ小学校(生徒数97 名)の校舎再建支援金として､｢マサラハット｣店主鈴木ジョーと写真家柳生雄弐(44 期)の２名が現地に赴き､全額を校長先生並びに県教育委員長に託しました｡募金額は校舎再建予算の40%にあたり､国の補助および海外で働くネパール人ネットワークの支援も加わり､すでに工事に着手しました。 皆様のご支援により小学校校舎再建工事が開始できましたことを心より感謝申し上げます。

【第二回代々木イベントのご案内】

来年２０１７年3月31日（金)、代々木第二体育館を借り切ってのRKMイベントを開催します。

同体育館は来年７月から2年間改修工事となり東京オリンピックではハンドボール会場に予定されていることから暫く借用が難しいと思われます。

年配者向けのフリースロー大会等巾広い年齢層が楽しめるよう企画しますので、是非この機会にご参加下さい。

現役支援ー技術指導について

幹事会では､金銭的な現役支援（毎年20 万円を目標)に加えて､OB による現役への技術指導を企画しています。

2015 年度は､各層のコーチ経験豊富な41 期新津耕一さんにお願いし､中学コーチおよび中学生に対する技術指導を不定期に実施して頂きました。

また､全国大会優勝経験のある29 期川浪茂男さんにお願いし､高中とも新チーム発足間もない今年7月12 日に､練習における心構え「バスケットする心」や基本技術について講話形式で約2時間お話して頂きました。

この様な企画はまだまだ単発のものにならざるをえず､特に中学生への常日頃の指導は､RKM の伝統である学生OB に頼らざるをえません｡別項に現役の公式戦結果を掲載してますが､中学は練馬で１～２回､高校は都予選で２～３回（ベスト６４程度)勝ち進めるのが現状です｡まずは都ベスト16 の常連校となることを目標に､中学時代に基礎をしっかり身に付けるようOB としても支援していきたいと考えてます｡会員各位の応援に加えて､アイデア､アドバイスがありましたらよろしくお願いします。

現部員数は計４７名（中一９､中二１０､中三１３､高一７､高二８）

川浪さん

新津さん

川浪さんと現役

【物故者】

2015 年８月以降に訃報を受けた方々です。
謹んでお悔やみ申し上げます。

34 期・三井　泰　2015 年９月 29 日
35 期・吉沢　至　2015 年 10 月 31 日
59 期・吉岡　聡　2015 年１月９日　（同窓会事務局より）